

第113回(2022年9月度)監査技術ゼミ 結果報告

運営委員長 菊谷 純
(文責: 松下 洋二)

1. 開催日時 2022年9月6日(火) 午後2時00分～午後5時00分
2. 開催方法・場所 オンライン(ZOOM)方式
講師は事務所より解説
司会(委員長)は自宅より進行
委員はオンラインで会議サポート
3. テーマ 事例で学ぶ品質不正の原因と監査役に求められる対応
4. 講師 KPMG コンサルティング アソシエイトパートナー 水戸 貴之氏
5. 出席者 59名(オンライン参加申込67名)
6. 配布資料 (事前に参加予定者へメールで送付)
「事例で学ぶ品質不正の原因と監査役に求められる対応」 2022年9月6日
KPMG コンサルティング株式会社 アソシエイトパートナー 水戸貴之

7. 議事次第

1) 運営委員長より開会の挨拶

菊谷運営委員長よりオンライン参加者のZOOM接続状況を確認したのち、開会挨拶と本日のテーマ紹介を行い、講師の水戸貴之氏を紹介された。

なお出席者の内、旧独立委員会セミナーも含めて当ゼミへの初参加者は以下の通り。

(株)横河ブリッジ 監査役 齋藤浩志氏
石油資源開発(株) 常勤監査役 本山喜彦氏

2) 講義

午後2時5分より、講師が自己紹介を行った後、資料に従い講義が行われた。途中3時2分から10分間の休憩時間を挟み、3時12分から再び資料に沿って講義が行われ、4時7分に講義が終了した。

3) 質疑応答および意見交換等

講義を終了したのち、6分間をチャット記入時間にあて、4時13分から出席会員会友と質疑応答ならびに意見交換が活発に行われた。

質疑応答および意見交換の要旨は以下の通り。

- ・ 三菱電機の不正事例をどのように評価すべきか。子会社調査の段階では問題は出なかったがその後明るみになった。このような時、監査役はどのすべきだったか。
- ・ 品質不正が明るみになるきっかけは何か。
- ・ 自主調査を行うためのトリガーとして何かあるか。定例的に実施すべきなのか。
- ・ コロナ禍と品質不正の関係はあるのか。
- ・ 3ラインディフェンスにおける役割責任分担の再検討において、第1線と第2線のチェックとはどのようなものか
- ・ 内部統制・オペレーション双方の変革にあたって、内部統制とオペレーションの違いは何か
- ・ 食品業界では品質不正は会社存続の危機となるので緊張感もって取り組んでいる。

- ・ 工場の廃液・廃棄物の適正管理も広義の品質管理といえる。従業員等へのアンケートは有効と思われる。
- ・ 製造業において監査役は品質不正を発見することはできるか

4) 委員長より閉会の挨拶

質疑応答の後、菊谷運営委員長が講師に感謝の意を表されるとともに、参加者に対しアンケートへの協力要請（後日メールで発信）を行うとともに、次回の監査技術ゼミは10月4日(火)に開催予定の旨案内した後、午後4時59分に閉会となった。

以上